

# 事務事業評価シート（1/2）

607 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0203  
 評価年度 令和 5年度  
 所属 1303  
 事務事業番号 00759

進捗区分 評価完了  
 都市計画部都市計画課  
 都市景観形成推進事業

所属長名 高木 裕司  
 記入者 西村 麻子

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画	
基本方針	002	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り	
基本政策	007	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します	
施策	018	古都にふさわしい景観づくり	
取組の方向性	001	次代に引き継ぐ景観づくり	
事務事業	001	都市景観形成推進事業	
新規継続区分	継続		
運営方法	直営		
評価区分	対象	主な取組区分	対象
根拠法令等	景観法・古都保存法・都市計画法（風致地区）等		

**事業概要**

(事業概要)  
 古都大津にふさわしい景観づくりを推進するため、景観法や古都保存法等の法令による規制、誘導を行っているところである。今年度は、第2次大津市景観計画の策定を行っており、近年の景観に対する市民意識の変化や社会情勢等を踏まえ、令和2年度に策定した、草津市と連携し広域的な景観形成を目的としたびわこ東海道景観基本計画や、歴史まちづくり法に基づく大津市歴史的風致維持向上計画を反映し、今年度、策定する予定で進めている。  
 また、良好な景観形成に対する市民意識を高めるため、景観絵画展を開催している。

**事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し**

(事業を取りまく社会環境)  
 市民の景観に対する意識の変化や、景観行政を取り巻く環境が変化していることが、アンケート調査の結果から示されており、今後、美しい景観を次世代につなげていくため、長期的な取り組みが必要とされている。  
 (見直しや改善等の経過)  
 良好な景観形成に対する意識の醸成を図るため、市民向けの景観絵画展を継続して実施しているところである。令和4年度からは、3カ年をかけて、近年の社会情勢の変化や景観に対する市民意識等を踏まえ、第2次大津市景観計画の策定を行うもの。

【事業分析】

対象(何又は誰を)	本市の美しく風格ある景観を
目的(何のために)	市民共有の財産として守り育て次世代に引き継ぐために
手段(どのようなやり方で)	景観法や古都保存法等の法令に基づく規制誘導とともに、良好な景観形成に対する市民・事業者の意識啓発を実施することで
成果(どのような状態にするのか)	都市の発展と調和させ、歴史や自然と調和したものとする

【コスト】 (単位：千円)

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	30,182	30,544	26,140	18,161	16,491	16,491	16,491
事業費	12,141	15,832	13,378	4,619	2,949	2,949	2,949
国庫支出金	5,088	6,401	5,864	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	7,053	9,431	7,514	4,619	2,949	2,949	2,949
人件費計	18,041	14,712	12,762	13,542	13,542	13,542	13,542
事務・技術(人)	2.15	1.80	1.55	1.65	1.65	1.65	1.65
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.41	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0203  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1303 都市計画部都市計画課  
 事務事業番号 00759 都市景観形成推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-20-05-31-00-01-00	都市景観形成推進事業費	都市計画部都市計画課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度	
(活動)景観計画区域内 行為届出又は事前協議 件数	件	200.00	200.00	200.00	200.00	200.00	200.00	200.00	200.00
(活動)市民啓発事業等 の開催数	回	166.00	163.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(活動)景観絵画展への 作品出展数	点	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
		2.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)適合通知率	%	700.00	700.00	700.00	700.00	700.00	700.00	700.00	700.00
		780.00	1,027.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00
		100.00	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥 当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
	C あまり妥当ではない		
	D 妥当ではない		
評価理由	法令や条例に基づく規制誘導や市民啓発事業は市が担う必要がある		
2 有効性	事業分析の「成果」欄 に記載の成果は上がっ ているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
	C あまり上がっていない		
	D 上がっていない		
評価理由	届出等の件数は目標に達していないが、概ね成果が上がっている。		
3 効率性	事業手法は効率的であ るか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
	C あまり効率的でない		
	D 効率的でない		
評価理由	効率的に規制誘導や啓発を実施している。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献 しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
	C あまり貢献していない		
	D 貢献していない		
評価理由	長期的な事業の継続は有効である。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	令和5年度においては、景観計画に基づく指導の結果、届出件数に対する適合通知率の割合が100%であり、良好な景観の形成や保全が推進されているところである。また、平成18年に策定した大津市景観計画は、策定後17年が経過しているため、令和4年度から令和6年度までの3カ年をかけて、第2次大津市景観計画を策定する。本計画の策定にあたっては、社会情勢の変化や景観に対する市民意識等を踏まえるとともに、令和2年度に策定した、草津市と連携し広域的な景観形成を目的としたびわこ東海道景観基本計画や、歴史まちづくり法に基づく大津市歴史的風致維持向上計画を反映していく。 景観絵画展などの市民啓発事業については、良好な景観形成意識の醸成に寄与していることから、今後も継続して実施していく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	令和6年度の第2次大津市計画の策定完了に向けた取組を進めるとともに、今後も引き続き規制誘導や啓発事業に取り組み、市民や事業者と協働し、自然、歴史及び文化が調和した古都大津にふさわしい風格ある景観の実現を目指していく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

610 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0204  
 評価年度 令和 5年度  
 所属 1303  
 事務事業番号 01879

進捗区分 評価完了  
 都市計画部都市計画課  
 都市計画施策調整事業

所属長名 高木 裕司  
 記入者 北村 裕樹

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	003	安心・快適に住み続けることのできる活力のあるまちを創ります				
基本政策	010	コンパクトで質の高い持続可能なまちにします				
施策	025	都心エリアの再生と地域形成				
取組の方向性	002	コンパクトな都市構造の構築				
事務事業	003	都市計画施策調整事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	都市計画法					
事業概要	(事業概要) 誰もが安全・安心・快適に住み続けられるコンパクト+ネットワークのまちづくりを推進していくため、地域拠点・生活拠点の設定をはじめ、拠点に必要な都市機能の明確化、魅力あふれる都心エリアの充実、交通ネットワークの再構築、湖西台地区の土地利用に向けた調査、検討に取り組む。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 人口の急激な減少と高齢化を背景として、高齢者や子育て世代にとって、安心できる健康で快適な生活環境を実現すること、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を可能とすることが必要となっている。 (見直しや改善等の経過) 令和3年度に大津市立地適正化計画を策定。令和4年度に本計画を踏まえ都市計画道路網の見直し、令和5年度には大津市都市計画マスタープランの中間評価を行った。また湖西台地区については、令和5年度に土地利用計画に関する基礎資料として概略設計を行った。					

【事業分析】

対象(何又は誰を)	大津市全域を
目的(何のために)	少子高齢化や人口減少社会においても安心、快適に住み続けられるまちづくりのために
手段(どのようなやり方で)	都市計画マスタープランにおける将来都市構造の基本的な考え方に基づく取組を推進することで
成果(どのような状態にするのか)	コンパクトで質の高い持続可能な都市構造を構築する

【コスト】 (単位：千円)

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	15,475	14,281	22,608	25,600	24,600	24,600	14,600
事業費	4,165	3,751	12,078	15,070	14,070	14,070	4,070
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	4,165	3,751	12,078	15,070	14,070	14,070	4,070
人件費計	11,310	10,530	10,530	10,530	10,530	10,530	10,530
事務・技術(人)	1.45	1.35	1.35	1.35	1.35	1.35	1.35
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

611 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0204  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1303 都市計画部都市計画課  
 事務事業番号 01879 都市計画施策調整事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-20-05-06-00-17-00	都市計画施策調整事業費	都市計画部都市計画課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度	
(活動)学識経験者を含む検討会議数	回	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動)都市計画に関する検討会議数	回	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	
		3.00	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)D I D地区内の人口密度	人/k㎡	6,770.00	6,770.00	6,770.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		6,800.00	6,800.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)居住誘導区域内の人口密度	人/ha	0.00	73.90	73.90	73.90	73.90	73.90	73.90	
		0.00	74.38	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	都市計画法に基づき市が主体的に行う施策調整事業である。		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	立地適正化計画を策定し推進することで徐々に成果を上げている。		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	都市計画審議会を計画的に行えた。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	コンパクトな都市構造の構築に貢献している。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	大津市都市計画マスタープランの中間評価を行った結果、概ね順調に進捗しているものと評価しており、記載の見直しを実施すべき要因も少ないと判断できたことから、引き続き現プランに基づき取組を推進する。 なお、中間評価において未着手項目として抽出したものの1つに、「実状に応じた用途地域変更検討」があり、令和6年度は実情との乖離が相当程度生じている工業系用途地域の見直しに向けたニーズ調査を行い、今後必要に応じて用途地域の変更を行う。 また、湖西台地区については、令和5年度に実施した概略設計を踏まえ、引き続き土地利用に向けた調査、検討を行う。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	令和5年度に実施した都市計画マスタープランの中間評価において、計画が概ね順調に進捗していると確認していることから、引き続き、都市計画マスタープランに位置付けた取組や立地適正化計画を推進し、魅力あるまちづくりに努めていく。 また、湖西台地区については、サウンディング型市場調査を実施し、土地の利活用に向けた検討を行う。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0205  
 評価年度 令和 5年度  
 所属 1303  
 事務事業番号 01900

進捗区分 評価完了  
 都市計画部都市計画課  
 都市景観施策促進事業

所属長名 高木 裕司  
 記入者 西村 麻子

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	002	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り				
基本政策	007	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します				
施策	018	古都にふさわしい景観づくり				
取組の方向性	001	次代に引き継ぐ景観づくり				
事務事業	002	都市景観施策促進事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	景観法、古都大津の風格ある景観をつくる基本条例					

事業概要	(事業概要) 琵琶湖を挟んで互いに眺望し合う関係にある草津市との連携により、近江八景と東海道でつながる広域的景観の保全を図る。 また、景観アドバイス制度による景観づくり相談会を実施し、都市機能と景観保全が調和したまちづくりを推進する。				
------	---	--	--	--	--

事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 琵琶湖を挟んで互いに眺望し合う関係にある草津市との連携により、広域的な景観の保全を図るための検討が求められている。 (見直しや改善等の経過) 大津市と草津市は、広域的な観点から良好な景観を保全し、景観を活かした魅力あるまちづくりを推進するため、景観法第15条に基づき設置したびわこ東海道景観協議会において、令和2年度に景観形成の方向性を示した「びわこ東海道景観基本計画」を策定した。また、令和3年度には市民又は事業者が実施する景観づくりを支援する景観アドバイス制度を創設した。				
----------------------	---	--	--	--	--

【事業分析】

対象(何又は誰を)	本市の美しく風格ある景観を				
目的(何のために)	市民共有の財産として守り、次世代に引き継ぐため				
手段(どのようなやり方で)	びわこ大津草津景観推進協議会やびわこ東海道景観協議会など、草津市との景観連携の取組みや、学識経験者などによる景観アドバイス制度を実施することで				
成果(どのような状態にするのか)	広域的景観が保全されるとともに連続性・統一性のある景観が創造される				

【コスト】 (単位：千円)

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	17,470	16,071	7,511	8,531	8,531	8,531	8,531
事業費	470	463	561	801	801	801	801
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	470	463	561	801	801	801	801
人件費計	17,000	15,608	6,950	7,730	7,730	7,730	7,730
事務・技術(人)	2.10	1.96	0.85	0.95	0.95	0.95	0.95
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.20	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

614 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0205  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1303 都市計画部都市計画課  
 事務事業番号 01900 都市景観施策促進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-20-05-31-00-03-00	都市景観施策促進事業費	都市計画部都市計画課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度	
(活動) 草津市との連携会議開催数	回	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	
		5.00	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動) 市民又は事業者への景観づくり支援数	回	2.00	2.00	2.00	5.00	5.00	5.00	5.00	
		1.00	3.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 東海道統一案内看板設置数	地域	18.00	19.00	20.00	21.00	22.00	23.00	23.00	
		18.00	18.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	草津市と連携し、市民・事業者の意見を取り入れ実施している		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	良好な景観形成が概ね推進できている		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	草津市と連携し、効率的に事業推進ができています。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	草津市と連携し、広域的な景観形成の推進ができています。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	「景観アドバイス制度」については、令和5年度は3件の利用があり、都市機能と景観保全が調和したまちづくりの推進に寄与している。今後も周知啓発を行い、更なる利用の促進を図る。 草津市との景観連携においては、両市での会議を重ね、「景観づくりチャレンジ隊」などの市民啓発事業に取り組んでおり、民間事業者の協力により東海道統一案内看板が市内に18基設置されるなど、一定の成果をあげている。今後も両市の連携のもと、啓発事業を継続するとともに、両市で策定したびわこ東海道景観基本計画を各市の景観計画に反映させるなど、着実に広域的景観形成を推進する。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	令和6年度に策定完了を予定している第2次大津市景観計画において、草津市と連携した広域景観連携の取組や景観アドバイス制度の活用を位置付け、これらの取組を推進することにより、広域的景観の保全や都市機能と景観保全が調和したまちづくりを推進していく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

616 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0206  
 評価年度 令和 5年度  
 所属 1303  
 事務事業番号 02394

進捗区分 評価完了  
 都市計画部都市計画課  
 歴史的資源を活かしたまちづくり推進事業

所属長名 高木 裕司  
 記入者 鈴木 翔太

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	002	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り				
基本政策	007	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します				
施策	018	古都にふさわしい景観づくり				
取組の方向性	001	次代に引き継ぐ景観づくり				
事務事業	005	歴史的資源を活かしたまちづくり推進事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律、大津市歴史的風致維持向上計画					
事業概要	(事業概要) 都市計画マスタープランのまちづくりの目標に掲げている「古都大津の自然、歴史、文化を生かした魅力あふれるまちづくり」の実現に向けて、市内各所に分布する自然、歴史、文化を地域固有の財産として保全、活用し、歴史的風致が後世へ良好に継承されるよう、「大津市歴史的風致維持向上計画」に基づく事業を実施する。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 本市においても、社寺や町家などの歴史的建造物や地域の人々が受け継いできた風習や行事などの本市特有の歴史や文化が、生活様式の多様化や社会環境の変化に伴う後継者不足などにより、喪失する恐れが生じている。 (見直しや改善等の経過) 平成28年度から平成29年度にかけて基礎調査を実施し、平成30年度から令和2年度までの3か年で「大津市歴史的風致維持向上計画」を策定した。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	市域全域を対象に
目的(何のために)	歴史的風致の維持向上を図ることを目的に
手段(どのようなやり方で)	歴史的風致の維持及び向上に資する事業を実施することで
成果(どのような状態にするのか)	歴史文化を活かしたまちづくりが一層推進され、本市ならではの風情あるまちなみと営みが次の世代に継承される。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	25,444	18,387	37,572	37,946	42,196	37,946	37,946
事業費	13,524	2,922	24,312	24,686	28,936	24,686	24,686
国庫支出金	1,955	1,311	8,000	9,000	9,000	9,000	9,000
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	11,569	1,611	16,312	15,686	19,936	15,686	15,686
人件費計	11,920	15,465	13,260	13,260	13,260	13,260	13,260
事務・技術(人)	1.25	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.70	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

617 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0206  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1303 都市計画部都市計画課  
 事務事業番号 02394 歴史的資源を活かしたまちづくり推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-20-05-06-00-19-00	歴史的資源を活かしたまちづくり推進事業費	都市計画部都市計画課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度	
(活動)地域人材活躍に対する支援事業実施回数	回	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	
		3.00	6.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)まちなみ修景整備に係る補助件数	件数	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	
		2.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	歴史的風致維持向上計画に基づき、本市の歴史・文化をより多くの方に触れていただくため、重点地区3地区における歴まちパネル展の開催や、国土交通省及びPokemon GOと連携した歴史的風致を紹介するポケストップの設置、本市全域の歴史的風致をテーマ毎に90秒で紹介する動画の作成・周知を行う取組を行った。また、大津百町地域において東海道と大津宿をテーマに「歴まちフォーラム」を開催した。まちなみ修景整備では、堅田地域1件、坂本地域1件に対し、歴史的なまちなみ景観に配慮した建造物の修景整備に補助を行った。引き続きこれらの取組を行い、歴史的風致の維持及び向上に努める。 近年、伝統的な町家の取り壊し、祭や行事の担い手不足等の問題が深刻化し、本市特有の歴史や文化を喪失する恐れが生じていることから、これらを守り、育て、活かすための新たな事業の検討もあわせて進める。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	歴史文化を活かしたまちづくりが一層推進されるよう、歴史的風致維持向上計画に基づき引き続き事業を推進する。事業の推進にあたっては、社会環境や市民ニーズの変化を捉え、柔軟に対応していくよう努めていく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

619 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0207  
 評価年度 令和 5年度  
 所属 1306  
 事務事業番号 00693

進捗区分 評価完了  
 都市計画部都市魅力創造課  
 都市再生拠点施設管理運営事業

所属長名 草薙 卓  
 記入者 石塚 陽佑

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	003	安心、快適に住み続けることのできる活力のあるまちを創ります				
基本政策	010	コンパクトで質の高い持続可能なまちにします				
施策	025	都心エリアの再生と地域形成				
取組の方向性	001	都心エリアのにぎわい創出				
事務事業	002	都市再生拠点施設管理運営事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			

根拠法令等	
事業概要	(事業概要) 明日都浜大津は、市民活動・子育て支援・健康の拠点施設として管理運営している。
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 明日都浜大津は、中心市街地の活性化に向けた取組を進める中心市街地活性化室が配置され、市民活動・子育て支援・健康の拠点施設として平成18年度にリニューアルし、明日都浜大津の活性化などに係る事業に取り組んできた。令和元年5月、まち家を活用したオフィスモデルとして「まち家オフィス結」を開設、移転したが、令和3年度に当該施設機能の一部を旧大津公会堂に移転し、閉鎖した。 (見直しや改善等の経過)

【事業分析】	
対象(何又は誰を)	明日都浜大津を
目的(何のために)	都心エリア周辺の活力あるまちづくりを目的に
手段(どのようなやり方で)	市民交流、子育て支援、健康施設（明日都浜大津）として利活用し
成果(どのような状態にするのか)	人と情報が活発に交流する施設とする

【コスト】		(単位：千円)						
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
		決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト		222,399	228,246	219,049	251,310	251,310	264,180	251,310
事業費		216,009	220,446	211,249	243,510	243,510	256,380	243,510
国庫支出金		0	0	0	0	0	0	0
県支出金		0	0	0	0	0	0	0
地方債		0	0	0	0	0	0	0
その他		19,626	18,321	19,736	19,793	19,793	19,793	19,793
一般財源		196,383	202,125	191,513	223,717	223,717	236,587	223,717
人件費計		6,390	7,800	7,800	7,800	7,800	7,800	7,800
事務・技術(人)		0.70	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
技能労務(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)		0.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費		0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

620 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0207  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1306 都市計画部都市魅力創造課  
 事務事業番号 00693 都市再生拠点施設管理運営事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-20-05-29-00-11-00	都市再生拠点施設管理運営事業費	都市計画部都市魅力創造課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
(活動)明日都浜大津の利活用面積	㎡	14,931.00	14,931.00	14,931.00	14,931.00	14,931.00	14,931.00	14,931.00
		14,931.00	14,931.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価	
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	B	
		B ほぼ妥当である		
		C あまり妥当ではない		
		D 妥当ではない		
評価理由	明日都浜大津は民間需要と行政利用の必要性を保つことが重要			
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B	
		B やや上がっている		
		C あまり上がっていない		
		D 上がっていない		
評価理由	明日都浜大津は都心エリア周辺の活力あるまちづくりに寄与			
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B	
		B やや効率的である		
		C あまり効率的でない		
		D 効率的でない		
評価理由	都心周辺エリアの機能のあり方と効率的な配置の再検討			
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	B	
		B やや貢献している		
		C あまり貢献していない		
		D 貢献していない		
評価理由	都心エリアの活性化に向けた施設の利用状況や運営業務の効率性等			
評価理由				

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	明日都浜大津は、市民生活に直結する子育て支援、健康及び市民活動などの重要な施設として、今後も適切な維持管理に努める。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	明日都浜大津は、市民生活に直結する子育て支援、健康及び市民活動などの重要な施設として、今後も適切な維持管理に努める。		



# 事務事業評価シート（1/2）

622 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0208  
評価年度 令和 5年度  
所属 1306  
事務事業番号 01898

進捗区分 評価完了  
都市計画部都市魅力創造課  
都市再生活動促進事業

所属長名 草薙 卓  
記入者 森井 啓太

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	003	安心、快適に住み続けることのできる活力のあるまちを創ります				
基本政策	010	コンパクトで質の高い持続可能なまちにします				
施策	025	都心エリアの再生と地域形成				
取組の方向性	001	都心エリアのにぎわい創出				
事務事業	004	都市再生活動促進事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			

根拠法令等	
事業概要	<p>(事業概要) 大津駅から大津港周辺へのさらなる回遊性の向上やにぎわいの創出に向け、官民連携により、大津駅前の公共空間の利活用促進や大津港周辺におけるにぎわい創出に向けた取組を進めていく。</p>
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境) 平成30年3月に第2期大津市中心市街地活性化基本計画が終了したが、引き続き大津駅から大津港周辺のさらなる回遊性の向上やにぎわいの創出に向けた事業を進めている。 (見直しや改善等の経過) にぎわいの創出に当たっては官民連携による取組が必要であり、令和2年度には公共空間の利活用の実施に向けて、大津駅前公園再整備と中央大通りの改良工事を実施し、令和5年度には同公園内に民間事業者による便益施設を誘致した。大津港周辺においては、令和5年度に大津港周辺地域の望ましい姿を検証するため、社会実験を実施した。</p>

【事業分析】

対象(何又は誰を)	大津駅から大津港周辺の
目的(何のために)	駅から湖岸、まちなかへの動線づくりや、にぎわい創出を目的に
手段(どのようなやり方で)	公共空間の利活用事業や大津港周辺における官民連携組織の構築等を実施し
成果(どのような状態にするのか)	回遊性を向上させ、にぎわいを創出する

【コスト】 (単位：千円)

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	21,222	30,306	27,834	40,334	21,334	21,334	21,334
事業費	2,432	20,010	16,524	29,024	10,024	10,024	10,024
国庫支出金	0	0	12,250	14,000	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	2,432	20,010	4,274	15,024	10,024	10,024	10,024
人件費計	18,790	10,296	11,310	11,310	11,310	11,310	11,310
事務・技術(人)	2.25	1.32	1.45	1.45	1.45	1.45	1.45
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0208  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1306 都市計画部都市魅力創造課  
 事務事業番号 01898 都市再生活動促進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-20-05-29-00-19-00	都市再生活動促進事業費	都市計画部都市魅力創造課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
(成果)琵琶湖観光客入込数	万人/年	150.00	150.00	150.00	150.00	150.00	150.00	150.00
		97.98	115.21	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価	
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A	
		B ほぼ妥当である		
		C あまり妥当ではない		
		D 妥当ではない		
評価理由	民間、県、市の役割分担を明確したうえで実施した。			
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A	
		B やや上がっている		
		C あまり上がっていない		
		D 上がっていない		
評価理由	社会実験等の実施により、にぎわいに創出への課題が判明した。			
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A	
		B やや効率的である		
		C あまり効率的でない		
		D 効率的でない		
評価理由	委託事業により、効率化を図ることができた。			
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A	
		B やや貢献している		
		C あまり貢献していない		
		D 貢献していない		
評価理由	にぎわい創出により周辺施設等への波及効果があった。			
評価理由				

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	大津駅前から大津港周辺の魅力をさらに向上させるため、回遊性を高めるまちづくりを進めていく。大津駅前では、都市再生推進法人である株式会社まちづくり大津が主体となり、大津駅前広場や整備が完了した中央大通りイベントスペース等において、イベントを継続して実施し、にぎわい創出につなげるとともに、大津駅前広場等の利活用プレーヤーの発掘・育成を進めていく。また、大津港周辺地域に求められる機能が竣工当時から変化していることから、令和5年度に大津港周辺のあるべき姿、望ましい姿を検証するため社会実験を実施した。実験の結果、集客効果や周辺施設等への波及効果、滞留効果といった点で一定の成果が得られた一方で、許認可手続きの簡素化や環境整備に関する課題が明らかとなった。今年度は社会実験等から見えた課題に対して取り組んでいくため、多様な主体との連携のもと、幅広い関係者が参画する官民連携組織の構築を行う。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	大津駅前から大津港周辺の回遊性を高めるため、大津駅周辺においては公共空間のさらなる利活用を図り、大津港周辺においては滋賀県が進める大津港活性化・再整備基本構想策定に係る検討会や地元、周辺事業者等と連携を図りながら、にぎわい創出に向けた取組を進めていく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

625 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0209  
 評価年度 令和 5年度  
 所属 1809  
 事務事業番号 00008

進捗区分 評価完了  
 都市計画部公園緑地課  
 児童遊園地維持管理事業

所属長名 中井 英紀  
 記入者 矢野 憲悟

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	002	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り				
基本政策	006	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします				
施策	015	自然環境の保全				
取組の方向性	002	里地里山等の保全・再生				
事務事業	004	児童遊園地維持管理事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			

根拠法令等	児童福祉法、都市計画法				
事業概要	(事業概要) 児童厚生施設に準じた遊び場として634箇所、概ね1,000㎡以下の小規模な公園を児童遊園地として位置付け、安全管理を最優先とし、地域の協力を得て快適な遊び場となるよう整備・維持管理に努めている。				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 子どもたちが、日常から利用する児童遊園地では、施設や遊具に対し高いレベルでの安全確保が求められている。市内では、宅地開発により、年々、児童遊園地が増加している。一方、少子高齢化など社会状況の変化に伴い、市民ニーズを反映したあり方検討が求められている。 (見直しや改善等の経過) 職員による日常点検に加え、専門業者による遊具点検を実施し、劣化が進行した遊具の修繕等を行ってきた。また、各公園の利用実態調査を踏まえて、児童遊園地のあり方検討を行っており、地域と市との協働管理などを目指したモデル事業を進めている。				

【事業分析】	
対象(何又は誰を)	児童遊園地
目的(何のために)	生活や遊びの中で自主性や社会性を育てるため。
手段(どのようなやり方で)	都市公園における遊具の安全確保に関する指針に準じ、日々点検・対応している。
成果(どのような状態にするのか)	安全で快適に遊ぶことができ、地域コミュニティを形成する場所となる。

【コスト】		(単位：千円)						
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
		決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト		102,902	109,534	111,578	111,578	111,578	111,578	111,578
事業費		76,722	81,394	83,828	83,828	83,828	83,828	83,828
国庫支出金		0	4,890	0	0	0	0	0
県支出金		0	0	0	0	0	0	0
地方債		0	0	4,100	0	0	0	0
その他		1,755	0	3,650	0	0	0	0
一般財源		74,967	76,504	76,078	83,828	83,828	83,828	83,828
人件費計		26,180	28,140	27,750	27,750	27,750	27,750	27,750
事務・技術(人)		1.30	1.70	1.65	1.65	1.65	1.65	1.65
技能労務(人)		1.80	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60
再任用(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)		1.40	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50
嘱託(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費		0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

626 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0209  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1809 都市計画部公園緑地課  
 事務事業番号 00008 児童遊園地維持管理事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-20-25-06-00-75-00	児童遊園地維持管理事業費	都市計画部公園緑地課

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度	
(活動)遊具等の安全点検箇所数／R5～点検率	箇所／率	620.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		620.00	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)安全性の確保（事故発生件数）	件	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)適正化箇所数	箇所	3.00	4.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00	
		0.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	B
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	地域住民との維持管理に取り組んでいく。		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	多くの市民が利用し地域コミュニティ形成の場となっている。		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	直営管理により利用者等に対し迅速な対応ができています。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	B
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	市民の身近な児童遊園地であり施策の貢献度は高い。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	事業の進め方に改善が必要	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	令和5年度は、令和4年度より児童遊園地が14箇所増加する中において、子どもの安全を最優先した適切な維持管理が行えた。今後、子どもが減少している地域では、利用頻度が低い児童遊園地もあることから、各児童遊園地の利用実態調査を踏まえ、地域にとって適切な管理方法等について、地域と市との協働管理を目指したモデル事業を進めながら、地域のニーズに応じた維持管理を行っていく。		

【部局評価結果】

総合評価	事業の進め方に改善が必要	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	児童遊園地の配置や、個々の児童遊園地のあり方と効果的な維持管理方法について、地域団体との協働でのモデル事業での課題や効果などを検証し、協働での維持管理を進め、安全・安心な子どもの遊び場を提供していく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

628 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0210  
 評価年度 令和 5年度  
 所属 1809  
 事務事業番号 02397

進捗区分 評価完了  
 都市計画部公園緑地課  
 公園愛護会管理運営事業

所属長名 中井 英紀  
 記入者 山本 芳輝

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	004	つながりを大切にし、共に支えあうまちにします				
施策	011	協働のまちづくりの推進				
取組の方向性	002	協働の推進				
事務事業	001	公園愛護会管理運営事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	都市公園法 大津市都市公園条例					
事業概要	(事業概要) 公園愛護会（地域の自治会などの団体）に、公園管理者との役割分担のうえ、地域にある都市公園の清掃活動に自主的に取り組んでもらう。都市公園緑地施設等維持管理事業より分離した。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 地域の公園を自分達で管理しようと公園愛護会への新たな加入がある一方で、愛護会会員の高齢化等により退会や解散する団体もある。 (見直しや改善等の経過) 公園愛護会と都市公園の指定管理者が連携を図ることで、公園の維持管理が充実している。					

【事業分析】

対象(何又は誰を)	地域の自治会が承認する団体に対して、
目的(何のために)	地域にある都市公園を美しく維持するために、
手段(どのようなやり方で)	清掃活動した実績に応じて報償費を支払うことで、
成果(どのような状態にするのか)	公園の美化を維持するとともに、市民協働で公園管理を図る。

【コスト】

(単位：千円)

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	7,549	6,330	7,263	7,263	7,263	7,263	7,263
事業費	5,989	5,940	6,873	6,873	6,873	6,873	6,873
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	5,989	5,940	6,873	6,873	6,873	6,873	6,873
人件費計	1,560	390	390	390	390	390	390
事務・技術(人)	0.20	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

629 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0210  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1809 都市計画部公園緑地課  
 事務事業番号 02397 公園愛護会管理運営事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-20-25-06-00-05-00	協働による維持管理事業費	都市計画部公園緑地課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度	
(活動)公園愛護会数	団体	150.00	100.00	100.00	100.00	105.00	105.00	105.00	
		99.00	93.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)公園愛護会が清掃活動する公園数	公園	150.00	100.00	100.00	100.00	105.00	105.00	105.00	
		102.00	94.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価	
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	B	
		B ほぼ妥当である		
		C あまり妥当ではない		
		D 妥当ではない		
評価理由	地域の自治会が承認する団体が活動しており、妥当である。			
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B	
		B やや上がっている		
		C あまり上がっていない		
		D 上がっていない		
評価理由	清掃活動を実施している公園数を維持し、一定の成果がある。			
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B	
		B やや効率的である		
		C あまり効率的でない		
		D 効率的でない		
評価理由	月1回以上の清掃活動を実施しており、公園の美観が保たれている			
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A	
		B やや貢献している		
		C あまり貢献していない		
		D 貢献していない		
評価理由	協働による公園管理により、協力してまちづくりに取り組んでいる			
評価理由				

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	公園愛護会の活動は、市民と行政の協働の推進や地域住民のつながりの場としても重要であるが、新たな登録団体の伸び悩みや既存団体の高齢化が進んでおり、施策の持続可能性について、今後検討を行う。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	公園愛護会の活動は、市民との協働による緑のまちづくりの推進及び公園の維持管理において大きな役割を担っていることから、公園愛護会の団体数を維持できるよう、参加要件など制度の見直し等の検討や積極的な取り組みへの支援を実施していく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

631 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0211  
 評価年度 令和 5年度  
 所属 1809  
 事務事業番号 04192

進捗区分 評価完了  
 都市計画部公園緑地課  
 なぎさ公園周辺魅力向上プロジェクト事業

所属長名 中井 英紀  
 記入者 奥川 豪

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	002	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り				
基本政策	006	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします				
施策	015	自然環境の保全				
取組の方向性	002	里地里山等の保全・再生				
事務事業	009	なぎさ公園周辺魅力向上プロジェクト事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			

根拠法令等	都市公園法 大津市都市公園条例				
事業概要	(事業概要) 竣工から20年以上が経過している大津湖岸なぎさ公園について、老朽化が進む公園施設の長寿命化対策や安全対策を進めるとともに、社会情勢の変化やニーズの多様化などに合わせた公園の多機能化や魅力向上に向けた調査・検討及び再整備を行う。				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) なぎさ公園は竣工から20年以上が経過し、園路や照明、休憩施設など公園施設の老朽化が進行するとともに、公園の利用形態や利用時間に偏りがみられる。一方で、社会情勢の変化やライフスタイルの多様化などによる公園の多機能化が求められている中、国においても都市公園法が改正され、民間活力による公園整備の仕組みが整えられるなど、公園の魅力向上に向けた再整備の機運が高まっている。 (見直しや改善等の経過) 令和2年度から全庁的な組織としてなぎさ公園周辺魅力向上プロジェクトを立ち上げ、なぎさ公園とその周辺の魅力向上に向けた取り組みを進めている。				

【事業分析】

対象(何又は誰を)	大津湖岸なぎさ公園において、
目的(何のために)	安心安全な公園づくりとともに、新たなにぎわいを創出するため、
手段(どのようなやり方で)	長寿命化対策、安全対策、民間活力の活用やエリアごとに特色を持たせた再整備を実施することにより、
成果(どのような状態にするのか)	近隣住民だけでなく広く県内外から多様な人々が集い、滞在できる公園とする。

【コスト】 (単位：千円)

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	121,149	111,796	301,816	231,253	153,389	116,389	116,389
事業費	106,329	98,146	288,790	218,227	140,363	103,363	103,363
国庫支出金	36,740	33,059	130,196	106,800	68,500	50,000	50,000
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	15,000	28,092	135,100	96,100	61,600	45,000	45,000
その他	0	7,975	0	0	0	0	0
一般財源	54,589	29,020	23,494	15,327	10,263	8,363	8,363
人件費計	14,820	13,650	13,026	13,026	13,026	13,026	13,026
事務・技術(人)	1.90	1.75	1.67	1.67	1.67	1.67	1.67
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

632 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0211  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1809 都市計画部公園緑地課  
 事務事業番号 04192 なぎさ公園周辺魅力向上プロジェクト事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-20-25-36-00-07-00	なぎさ公園周辺魅力向上プロジェクト事業費	都市計画部公園緑地課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
(活動) LED化した公園灯の基数	基	0.00	20.00	20.00	10.00	10.00	10.00	10.00
		6.00	9.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) なぎさ公園駐車場駐車台数	台	191,000.00	197,000.00	203,000.00	209,000.00	215,000.00	221,000.00	221,000.00
		191,913.00	170,205.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	長寿命化対策と魅力向上に資する再整備が進んでおり妥当である。		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	先行して安全性の向上につながる再整備を行っており有効である。		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	目標達成に向けて必要な事業を行っており効率的である。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	安心安全な公園づくりとにぎわい創出が目的であり貢献している。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	なぎさ公園の魅力向上に向け、老朽化が進む公園施設の長寿命化対策や安全対策への取り組みとともに、社会情勢の変化や新たなニーズに対応したにぎわい拠点とするため、公募設置管理制度（Park-PFI）を活用して官民連携による再整備事業を進めている。令和5年度は、照明改修や園路舗装改修を行うとともに、民間事業者との間で協議を進め、Park-PFIによる再整備工事に着手した。民間事業者による再整備工事に合わせて、周辺の公園施設についても改修を行うことで、なぎさ公園のさらなる魅力向上に繋がることから、計画どおり事業を進めることが適当である。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	公園施設の長寿命化対策や安全対策など安心安全な公園づくりに繋がる施設改修を行うとともに、公園の魅力向上や新たなにぎわい創出を図るため、Park-PFIを活用した民間事業者による再整備やなぎさ公園周辺魅力向上プロジェクトにおける各部局の取り組みとも連携し、今後も引き続き時期を逸することなく事業を進めることが適当である。		



# 事務事業評価シート（1/2）

634 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0212  
 評価年度 令和 5年度  
 所属 1810  
 事務事業番号 00984

進捗区分 評価完了  
 都市計画部住宅政策課  
 住宅管理事業

所属長名 吉川 学  
 記入者 吉田 靖洋

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	003	安心、快適に住み続けることのできる活力のあるまちを創ります				
基本政策	010	コンパクトで質の高い持続可能なまちにします				
施策	027	住環境の整備				
取組の方向性	001	市営住宅の適正管理				
事務事業	001	住宅管理事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	公営住宅法					
事業概要	(事業概要) 住宅に困窮する低額所得者に対し、低廉な家賃の市営住宅を供給する。 管理戸数 2, 780 戸（改良住宅 386 戸、特定の条件を付した特定公共賃貸住宅 49 戸を含む）を対象とする。 入居者の選考、不正入居者の対応、システム管理など市営住宅の管理に係る事業を実施している。また、令和 2 年度から指定管理者制度を導入しており、モニタリングを通じて適正な運用を図っている。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 市営住宅の新規入居戸数は減少傾向にあるものの、少子高齢化や家族構成の複雑化に伴い、高齢者や一人親家庭、単身世帯などの住宅確保要配慮者への、低廉な住宅の供給が必要となっている。 (見直しや改善等の経過) 平成 29 年 10 月より試験的修繕等業務委託を実施、令和 2 年度から市営住宅の管理全般について指定管理者制度を導入したことから、モニタリングによる評価を実施し、市営住宅の適正な管理を進めている。令和 4 年度に指定管理者の再選定を行った結果、令和 5 年度より新たな指定管理者により市営住宅の管理を行っている。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	市内在住又は在勤の住宅に困窮している低額所得者。
目的(何のために)	住宅に困窮する低額所得者に対し、低廉な家賃の住宅を供給する。
手段(どのようなやり方で)	定期空家募集を行うとともに特定目的住宅の整備を進め、指定管理者制度により市営住宅の適正な管理を行う。
成果(どのような状態にするのか)	住宅に困窮する低額所得者に対する住宅確保と社会福祉の増進に寄与。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	268,137	286,428	378,600	291,871	313,522	287,496	287,495
事業費	233,429	254,276	343,024	256,295	277,946	251,920	251,919
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	233,429	254,276	343,024	256,295	277,946	251,920	251,919
一般財源	0	0	0	0	0	0	0
人件費計	34,708	32,152	35,576	35,576	35,576	35,576	35,576
事務・技術(人)	4.10	3.40	4.20	4.20	4.20	4.20	4.20
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.88	1.76	0.88	0.88	0.88	0.88	0.88
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

635 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0212  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1810 都市計画部住宅政策課  
 事務事業番号 00984 住宅管理事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-25-05-16-00-01-00	住宅管理事業費	都市計画部住宅政策課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度	
(活動) 募集戸数	戸	120.00	120.00	120.00	120.00	120.00	120.00	120.00	
		120.00	120.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 特定目的住宅整備戸数	戸	15.00	15.00	15.00	15.00	15.00	15.00	15.00	
		15.00	15.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	公営住宅法に基づき、市営住宅を整備することにより、住宅に困窮する低額所得者に住宅を提供することができている。一方で、入居戸数の減少が見られるため空家募集の効果的な周知や特定目的住宅の整備に一層努める。また、令和2年度から指定管理者制度を導入しており、令和4年度には指定管理者の再選定を行い、令和5年度から新たな指定管理者により市営住宅の管理を行っている。引き続き、定期的な打ち合わせにより課題の共有を図るとともに、モニタリングによる評価を実施し、必要に応じて指導及び助言を行い、市営住宅の適正な管理を進めていく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	大津市住宅マネジメント計画に基づき、引き続き耐用年限を経過した市営住宅の用途廃止を行い、管理戸数の適正化を図りつつ、年次的に特定目的住宅を整備することにより、困窮度の高い住宅確保要配慮者への対応を行う。また、指定管理者に対して、本市のモニタリング指針に沿ったモニタリングを適切に行い、引き続き低コストで質の高い市営住宅の管理運営を推進する。		



# 事務事業評価シート（1/2）

637 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0213  
 評価年度 令和 5年度  
 所属 1810  
 事務事業番号 02654

進捗区分 評価完了  
 都市計画部住宅政策課  
 空家等対策事業

所属長名 吉川 学  
 記入者 梅村 知夫

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	003	安心、快適に住み続けることのできる活力のあるまちを創ります				
基本政策	010	コンパクトで質の高い持続可能なまちにします				
施策	027	住環境の整備				
取組の方向性	002	空き家の適正管理と有効活用				
事務事業	001	空家等対策事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			

根拠法令等	空き家等対策の推進に関する特別措置法				
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>人口減少・少子高齢化等を背景に、近年空き家の増加による地域の住環境やコミュニティへの影響が深刻化してきている。このことから、空家等対策の推進に向け、「予防」及び「適正管理」並びに「利活用」について、総合的かつ計画的に事業を進め、良好な住環境の確保及び持続可能なまちづくりに寄与することを目的とする。</p>				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>平成27年に空家対策特措法が施行され、また、税制度の特別措置がとられるなか、国の制度等が拡充されていることから、計画的かつ総合的な空家等対策が求められている。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>平成28年度に法律を補完する大津市空家等適正管理条例を制定し、平成29年度には、空家等に関する対策を総合的に推進するため大津市空家等対策計画を策定した。また、令和5年度に空家対策特措法が改正されたことから、新たに規定された管理不全空家等への指導等に取り組むとともに、本市独自の施策である定住促進リフォーム補助事業等を通じて、空き家発生の予防と利活用を推進していく。</p>				

【事業分析】

対象(何又は誰を)	空き家等の所有者、地域住民及び関連事業者団体等
目的(何のために)	空き家等の適正管理及び有効利活用の促進
手段(どのようなやり方で)	管理不全な有害空家等に関する改善指導等、官民連携の体制構築、定住促進リフォーム補助事業等の実施、地域主体の空き家等対策の取り組み支援
成果(どのような状態にするのか)	管理不全な有害空家等をなくし、定住促進やまちの賑わい創出に寄与する空き家等の利活用が図られる

【コスト】 (単位：千円)

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	26,975	33,271	48,322	66,724	54,412	54,412	54,412
事業費	3,644	9,257	16,376	31,688	19,376	19,376	19,376
国庫支出金	0	0	0	5,500	0	0	0
県支出金	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	6	543	5,006	5,006	5,006	5,006	5,006
一般財源	2,638	7,714	10,370	20,182	13,370	13,370	13,370
人件費計	23,331	24,014	31,946	35,036	35,036	35,036	35,036
事務・技術(人)	2.25	2.06	3.15	3.40	3.40	3.40	3.40
技能労務(人)	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.90	0.80	1.00	1.00	1.00	1.00
会計年度任用(人)	1.76	0.88	0.88	0.88	0.88	0.88	0.88
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

638 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0213  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1810 都市計画部住宅政策課  
 事務事業番号 02654 空家等対策事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-05-15-06-00-16-00	空家等対策事業費	都市計画部住宅政策課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
(活動)空き家等パトロール・現場調査の回数	回	72.00	72.00	72.00	72.00	72.00	72.00	72.00
		76.00	77.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)管理不全な有害空家等の指導方針確定率	%	80.00	80.00	80.00	80.00	80.00	80.00	80.00
		77.00	77.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	管理不全空家については、隣家や自治会等からの通報から所有者等に通知を送るまでの期間について、空家の所有者等の調査についてのノウハウの蓄積をしてきたことから、GISの活用など事務処理の迅速化に努めた。成果指標である「管理不全な有害空家等の指導方針確定率」については、令和5年度中に3件の特定空家等が解消したこと等、目標に近づいている。今後も事務改善を図り、計画に基づき、市内の空き家の実態調査や定住促進リフォーム補助事業の拡充等、更なる事業の遂行に努める。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	大津市空家等対策計画に基づき、「予防対策」としてホームページや啓発冊子等により空き家の所有者に除却や利活用の早期の対処を促すとともに、地域の空家対策の体制づくりへの支援や定住促進リフォーム補助事業の拡充により、空き家発生の予防に努める。 また、「適正管理対策」として、管理不全空家の所有者等に対して、適正な管理を促す情報提供や、助言・指導を行うとともに、必要な場合は催告等を実施する。 さらに、「利活用・流通対策」として、空家バンク制度の周知・充実を図り、利活用・流通を促進する。		



# 事務事業評価シート（1/2）

640 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0214  
評価年度 令和 5年度  
所属 1308  
事務事業番号 04193

進捗区分 評価完了  
都市計画部開発調整課  
宅地耐震化推進事業

所属長名 坂本 和好  
記入者 古山 綾子

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	003	安心、快適に住み続けることのできる活力のあるまちを創ります				
基本政策	009	安心、安全に暮らすことのできるまちにします				
施策	021	災害に強いまちづくりの推進				
取組の方向性	001	災害に対するまちの安全性の確保				
事務事業	028	宅地耐震化推進事業				
新規継続区分	新規					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	宅地造成及び特定盛土等規制法					
事業概要	<p>「宅地造成及び特定盛土等規制法」（通称：盛土規制法）の運用を開始するために必要な基礎調査や法施行細則等の改定等を行う。</p> <p>令和5年度は、規制区域の指定に当たり必要な基礎調査の実施や、盛土等に伴う災害の防止のための対策に必要な基礎調査を実施する。</p> <p>令和6年度は、盛土規制法運用開始に向け、規制区域案の公表、法施行細則や手続き条例の制定、違反取締要綱等の改定と体制づくりの検討を行う。</p> <p>令和7年度は、令和5年度の基礎調査で抽出した既存盛土等の安全性把握調査の優先度評価を行う。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>令和3年7月の熱海市での土砂災害を受け、宅地造成等規制法が法律名も含め大幅に改正された。新たな法律「宅地造成及び特定盛土等規制法」（通称：盛土規制法）は、令和4年5月27日交付、令和5年5月26日施行。従前は宅地造成に伴う切盛土のみが対象であったが、新法では、農地、森林等土地利用を問わず全ての造成が規制対象となり、一時的な仮置きや不法投棄も対象となった。また規制区域も改めて設定する。ただし、新法の運用開始は新たな規制区域を設定してからとなり、新法の経過措置として、設定まで（施行日から最大2年間）は旧法が適用される。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	大津市全域の盛土等
目的(何のために)	宅地造成及び特定盛土等規制法（通称：盛土規制法）の着実な運用
手段(どのようなやり方で)	盛土規制法に基づく規制区域の指定や、法施行細則及び手続等に関する条例の制定、運用ガイドラインなどを整備する
成果(どのような状態にするのか)	盛土等による災害の防止に資する

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	0	35,726	0	44,600	0	0	27,600
事業費	0	20,204	0	29,000	0	0	12,000
国庫支出金	0	10,101	0	7,300	0	0	4,000
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	10,103	0	21,700	0	0	8,000
人件費計	0	15,522	0	15,600	0	0	15,600
事務・技術(人)	0.00	1.99	0.00	2.00	0.00	0.00	2.00
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

641 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0214  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1308 都市計画部開発調整課  
 事務事業番号 04193 宅地耐震化推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-05-15-06-00-11-00	宅地耐震化推進事業費	都市計画部開発調整課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度	
(活動) 規制区域指定のための基礎調査面積	km <sup>2</sup>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	374.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動) 既存盛土等の基礎調査面積	km <sup>2</sup>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	374.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 規制区域指定のための基礎調査の達成面積	km <sup>2</sup>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	374.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 既存盛土等の基礎調査の達成面積	km <sup>2</sup>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	374.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	令和5年5月26日に「宅地造成及び特定盛土等規制法」が施行され、令和7年4月1日から本市が同法の制度を運用するためには、令和5年度に実施した基礎調査の実施による区域指定案の作成と、令和6年度の条例等の整備が必須であることから、計画どおり事業を進める。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	当該事業は、盛土規制法の施行を受けて、本市が法律を運用するために不可欠なものであり、法律を補完し実効性を高めるための条例等の整備など引き続き適切な準備に取り組む。		



# 事務事業評価シート（1/2）

643 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0215  
評価年度 令和 5年度  
所属 1309  
事務事業番号 00212

進捗区分 評価完了  
都市計画部建築指導課  
耐震改修促進事業

所属長名 泉 良尚  
記入者 山本 美紀子

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	003	安心、快適に住み続けることのできる活力のあるまちを創ります				
基本政策	009	安心、安全に暮らすことのできるまちにします				
施策	021	災害に強いまちづくりの推進				
取組の方向性	001	災害に対するまちの安全性の確保				
事務事業	001	耐震改修促進事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	建築物の耐震改修の促進に関する法律、既存民間建築物耐震診断補助金交付要綱等					

事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>旧の構造基準で建築された昭和56年以前の民間建築物に対して耐震診断に要する費用の一部を補助する事業、市内木造住宅の耐震診断及び耐震補強案の作成を実施する耐震診断員派遣事業及び木造住宅の耐震改修等費用の一部を補助する事業の実施により、既存建築物の耐震性能の向上を図る。また避難路沿道に存するブロック塀撤去等の一部を補助する事業を実施し、災害時の倒壊による被害の防止を図っている。</p> <p>上記支援事業及び市民への耐震化の重要性を周知啓発することにより、市民の防災に対する意識の向上を促すとともに、建築物の安全性を向上させ、災害に強いまちをつくることを目標とする。</p>
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>能登半島地震などの震度5クラス以上の中大規模地震が全国各地で頻発し、防災に対する意識が全国的に高まっている。耐震診断の義務付け等法の整備も後押しとなり民間建築物の耐震化が促進されている。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>更なる耐震化促進のため令和2年度から木造住宅耐震補強案作成事業を、令和3年度から木造住宅耐震改修等事業をそれぞれ再開したほか、令和3年度より新たにブロック塀撤去等促進事業を開始し、耐震化支援のための制度の充実を図っている。</p>

【事業分析】

対象(何又は誰を)	昭和56年以前に建てられた民間建築物において
目的(何のために)	民間建築物の耐震性の向上を図るために
手段(どのようなやり方で)	建築物の所有者等が行なう耐震診断や木造住宅耐震改修工事及び避難路沿道のブロック塀撤去等の費用の一部補助、木造住宅耐震診断のための耐震診断員派遣、さらに各種制度の紹介資料作成やDM送付等による周知啓発活動により
成果(どのような状態にするのか)	市民の防災に対する意識の向上を促すとともに、建築物の安全性を向上させ、災害に強いまちをつくる

【コスト】 (単位：千円)

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	11,613	13,743	23,389	31,197	22,018	17,618	17,618
事業費	4,203	6,099	13,249	20,823	11,644	7,244	7,244
国庫支出金	1,980	2,914	6,442	10,015	5,475	3,425	3,425
県支出金	1,053	1,534	1,976	3,381	2,811	1,636	1,636
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,170	1,651	4,831	7,427	3,358	2,183	2,183
人件費計	7,410	7,644	10,140	10,374	10,374	10,374	10,374
事務・技術(人)	0.95	0.98	1.30	1.33	1.33	1.33	1.33
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

644 頁  
令和 6年 9月18日

整理番号 0215  
 評価年度 令和 5年度 進捗区分 評価完了  
 所属 1309 都市計画部建築指導課  
 事務事業番号 00212 耐震改修促進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-40-05-15-06-00-06-00	耐震改修促進事業費	都市計画部建築指導課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和10年度	
(活動)住宅の診断実施者への啓発通知件数	件	1,100.00	1,000.00	1,000.00	900.00	900.00	900.00	900.00	
		1,140.00	1,073.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動)住宅への戸別訪問による啓発活動件数	件	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	
		5.00	5.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)耐震補強案作成件数	件	15.00	15.00	20.00	40.00	35.00	10.00	10.00	
		14.00	19.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)住宅の耐震改修実施件数（木造）	件	5.00	10.00	12.00	12.00	7.00	5.00	5.00	
		2.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	地震対策及び市民の耐震化に対する意識向上に必要な事業		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	等事業の問い合わせや耐震診断申請件数等が増加している		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	事業の充実及び継続実施により、耐震化に寄与することができる		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	耐震化の支援により、市民の生命を守ることに繋がる重要な事業		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	各種補助事業等の再開や制度拡充により耐震化へと繋がりがやすくなったことに加えて、令和6年1月の能登半島地震をはじめとする中大規模地震の頻発により、市民の防災に対する意識が高まっている。次年度に終期を迎える大津市既存建築物耐震改修促進計画の目標達成に向け、既存建築物の更なる耐震化を促進するため、現在の事業の継続実施及び制度の充実を図るとともに、市民や建物所有者への直接的な働きかけや周知啓発を引き続き推進していく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	能登半島地震の発生により市民の防災への関心が高まってきており、建築物の耐震化が改めて注目されている。令和7年度に終期を迎える大津市既存建築物耐震改修促進計画における目標達成に向けてさらに周知啓発活動を強化するとともに、各事業の推進に必要な予算の確保に努める。		

